

なんの変哲もない一日

東日本建設業保証株式会社
建設産業図書館
江口知秀
Tomohide Eguchi

予 定がない休日は、同行者と近所を散歩する。私は横浜の中心街近くに住んでいるが、なるべく人ごみを避けて静かな道をたどることにしている。たとえば今日は、近年開発された神奈川区のコトトンハーバー地区へ海を見に行くことにした。ゆつくり歩いて、往復二時間ぐらいのコースとなる。

雲ひとつない青空が気持ちいい。同行者もたいそう機嫌がよく、私の肩へ軽いパンチを繰返し、周りに人がいなければ歩きながらよく歌い、よく踊る。絶好調の同行者は如何とも御し難く、唯々諸々とするにしくはない。なすがままとなる。

さて、コトトンハーバーへの道すがら、神奈川台場の石垣遺構へ立寄ることにした。神奈川台場は異国船を砲撃するために建設された総面積約二万六、〇〇〇平方メートルの要塞であり、海岸から離れたところに造られ、東西二本の渡り道を通じていく構造となっていた。設計は有名な勝海舟による。

最近、この石垣のすぐ近くに神奈川台場公園ができた。公園の地下には台場へと渡る道の一つ「西取り渡り道」の遺構が埋まっている。

そういえばコトトンハーバーにも、開発企業によって賃貸マンションの一階に神奈川台場の資料室が造られたという。これまで、まったく気がつかなか

ったが、なるほど土日は休館らしくシャッターが閉まっていた。しかし、資料室の外にも台場の石垣が露出整備されていて、これは資料室内部まで続いており、資料室内の喫茶店やバーでくつろぎながら、貴重な幕末の遺構を眺めることができるらしい。

散歩の終りは、海に面したボードウォークへと向かう。ここは結婚式場に併設して造られたフリースペースなので、いつもベンチに腰かけて海を眺めながら缶コーヒーを飲む。コトトンハーバーは、浅野造船所のドックや工場跡地を再開発した地区だが、みなどみらいや山下公園などの有名スポットから離れているため、観光客などまず来ない。

コーヒーを飲みながら、海の方このマリントワーを眺めていると、結婚式場から歓声と拍手がわきあがった。式のクライマックスに風船を放つらしい。色とりどりの風船が、青空へ吸い込まれるように小さくなっていく。

風船が飛び去った空から眼をもどすと、私たちの前を自転車に乗った小さな子どもが、ベルを鳴らしながら、得意そうに通り過ぎていった。ようやく補助輪を卒業したのだろう。かつては、工場の喧騒が鳴り響いていただろうこの場所に、波とカモメの鳴き声以外の音はこれだけだった。

「さあ、いっかね」コーヒーを飲み終えた同行者が、きどった口調で私を促がした。私も残りを飲み干して、フンッ！フンッ！と氣勢も高らかに腕をふって歩く同行者に続く。

あと二〇年、三〇年、長くても四〇年か。いや、もっと早く、突然その時は訪れるかもしれない。だからこそ、なんの変哲もない穏やかな一日が、何よりも暖かく私の心に残る。
(了)



史跡神奈川台場跡の碑

[交通]横浜駅から徒歩20分、
京浜急行神奈川駅なら徒歩10分

※碑文の全文は日建連HPに掲載しています。